

## 『特例子会社富士電機フロンティアの人材育成』

～障害者がいきいき働く雇用の実態と育成～

人材活性化委員会では、本年度より「多様な人材の活用と活性化を推進する人材育成」に取り組んでいる。今回は、富士電機の特例子会社・富士電機フロンティアに於いて①「障害者雇用の実態」と「人材育成」の取組み事例の発表（発表者：取締役業務部長西村平和氏）②「障害者の自立を図る働く現場」の視察を実施した。



### 自立を目指す育成

同社は、「富士電機フロンティア障害者雇用の理念」に基づき障害者の雇用を法に縛られるのではなく、企業の社会的責任として捉え、人材育成に取り組み社員の自立を図り共に理解し共に働く場の創出に努力している。社員は全員正社員で雇用を保証している。

「親会社のものづくりDNA」を引き継ぎ、現場体験（ものづくり）のある管理監督者が指導員となり、①技術・技能がないと通用しない②製品に対して正直でなければならない③先輩から後輩へ・先輩を敬う心（挨拶・礼儀）と教え、職業人として社会人として自立を成し遂げるよう、恩恵的な関わりをせずに厳しく育成している。

### 障害者がリーダーとなって働く現場

仕事は、清掃・郵便作業・製本・印刷・製造支援（タービンブレード研磨）があり、1人で生活・仕事ができる社員の自立をめざしている。障害者がリーダーとなって仕事を進め、失敗点や反省点は各自がノートに書き指導員に報告しトラブルから学ばせている。社員の中には、フォークリフト運転免許の取得、技能検定製本2級実技合格者も出ている。

毎年1人の新卒の採用を継続するために事業の拡大が課題であり、指導員の大事な役目でもある。愛情があるから厳しい指導が出来、その指導で障害者がいきいき働いている職場だと感じた参加者から感想が寄せられた。